

東京経済大学ニュース

Vol. 05

東京経済大学ホームページ : <http://www.tku.ac.jp/>

CONTENTS

特集1 キャリアデザインプログラム


2017年4月のスタートを前に、基幹となるキャリア方針を決定

特集2 社会と大学を繋ぐ「地域連携センター」

地域の活性化など社会貢献を目的として設立

東経大インフォメーション

- ① 定員増申請が認可され、合計180名の入学定員増
東京経済大学 全収容定員は1570名募集に
- ② 伊藤伴さんが世界最高峰エベレスト登頂に成功
日本人最年少記録を更新。世界第4位のローツェ連続登頂も
- ③ 山田真樹さん「世界ろう者陸上競技選手権」でメダル4個獲得！
400メートルで世界ろう者ジュニア新記録を樹立
- ④ オープンキャンパス女子プロジェクト
東京経済大学の魅力を女子目線で伝える
- ⑤ 対外経済貿易大学・東京経済大学交流30周年
記念イベントとして学術フォーラムを開催
- ⑥ わらしべ長者プロジェクト開催
物々交換の繰り返しで得た資金を国境なき医師団へ寄付
- ⑦ お年寄りの健康を考え「からむし」の葉を使った「笑福」発売
ほうれん草の57倍のカルシウムを含む植物で作る和菓子
- ⑧ その他
 - ・卒業生の現役教師 成瀬大地さんが勧める多様な「教師の道」
 - ・スカイプを使用してタイの大学と合同授業実施
 - ・信州青木村『義民太鼓』&山中信人 津軽三味線 演奏会開催

特集1  CAREER DESIGN PROGRAM 「キャリアデザインプログラム」

～2017年4月のスタートを前に、基幹となるキャリア方針を決定～

「なりたい自分になる」。在学中の主体的な学びでそれを実現するため、未来への確かな知恵とチカラを育成する『キャリアデザインプログラム』が2017年4月にスタートします。

1年次に入門科目、2年次からは学部にも所属して専門科目を学ぶなど、4年間を通じてキャリア教育が行われるほか、学部横断型の広い分野の科目を履修できるという特長を持つ『キャリアデザインプログラム』の基幹となるキャリア支援方針が決定したので、紹介いたします。

◆キャリアデザイン・ワークショップ

段階に応じた内容で、より明確に将来の目標へ近づくための知恵と確かなチカラを身につけます。



年次	内容
1年次	・アクションプランの作成。 ・ジョブシャドウイング活動の提供。 ・ワークシートを利用し、自らの考えや関心を明確にする。
2年次	・知識を活用し問題を解決する力と、経験によって得た行動特性を可視化。 ・さらに自らの「キャリア」に関して意識を高める。
3年次	・インターンシップへの参加を推奨。 ・就職活動に備えた準備の開始。
4年次	・集大成として後輩を指導・培ってきた自らのチカラを再認識し、社会人としての土台を固める。

◆大倉進一層キャリア塾

キャリアに興味を持つ学生を対象に、本学の若手・中堅の卒業生などを講師に招きゼミや講演会、企業訪問を通じて仕事の魅力を学びます。過去には、お菓子メーカーの商品開発体験やIT系企業のマーケティング活動について考察、また、大手ゼネコンへの企業訪問を行ったほか、地方銀行の仕事や地域金融の役割についても学びました。



「進一層（しんいつそう）」とは
東京経済大学の前身、大倉商業学校の創立者大倉喜八郎は、明治・大正期に日本経済の基盤となる建設、電気、製鉄、繊維など200以上の企業を設立したチャレンジ精神あふれるビジネスマンでした。大倉は、“一歩前に出て道を切り開くチャレンジ精神”を「進一層」と呼び、建学の精神としました。

特集 2 社会と大学を繋ぐ「地域連携センター」

～地域の活性化など社会貢献を目的として設立～

東京経済大学地域連携センター（TKU Center for Regional Collaboration :CRC）は、学生や教職員の地域社会との連携および地域貢献活動を促進し、地域社会や産業界の課題に応え、その発展に寄与することを目的として設置されました。

地域社会のニーズを受け取る対外的な窓口として、また情報発信拠点として国分寺キャンパスにある1号館の2階に専用オフィスを開設。昨年11月から専任職員を配置し、本格的に運用をスタートしました。

当センターを開設する前史として、本学は2004年10月、国分寺市および国分寺市商工会の三者で地域活性化を目的に、相互に協力・連携する「東京経済大学・国分寺地域連携推進協議会」を組織。以来、まちづくりにかかわる共同研究、シンポジウムなどのイベント開催、そして地域と協働した授業運営などに取り組んできた経緯があります。

この10年余の間に、本学および学生たちは地域参加を通じて学び、地元の商工事業者や行政と膝を突き合わせての議論の場に参加させてもらうなど、様々に鍛えられてきたといえます。

地域連携センターで行っている支援活動

地域活性化に向けた活動	地域をより活性化させる取り組みを、様々な側面から支援。
産業界との連携	多摩信用金庫、西武信用金庫と包括的連携協定を締結。地域産業との共同で事業を支援。
社会貢献	ゼミやサークルによるボランティア活動や、フェアトレード運動等を支援。
地域インターンシップ	国分寺市や国分寺地域の企業・団体でのインターンシップの支援。
学生の地域における活動	ゼミや学生団体が、地域団体や住民と一緒に行う活動の支援。

こうした取り組みを基礎に、地域や産業界と大学とをより大きなパイプでつなぐ橋渡し役として、また、大学としてより一層、社会への貢献を推し進めるために、地域連携センターは活動しています。

これまで以上に社会のニーズに応え、また地域との接点を重視してアカデミックな教育環境のチャンネルを増やし、より多くの学生らが地域に飛び込んでいくことを後押しできるよう努力いたします。

東経大インフォメーション

Information 1

定員増申請が認可され、合計 180 名の入学定員増

東京経済大学 全収容定員は 1570 名募集に

2016 年 6 月 30 日、文部科学省から収容定員増が認可されました。1 学年分の入学定員は 2017 年度から全体で 180 名増加し、経済学部 530 名、経営学部 565 名、コミュニケーション学部 225 名、現代法学部 250 名で合計 1570 名となります。

学部	前年度 定員				全収容定員
		一般入試 前期	指定校 推薦	今年度 増員計	
経済学部	455	50	25	75	530
経営学部	485	50	30	80	565
コミュニケーション学部	200	15	10	25	225
現代法学部	250				250
学部合計	1390	115	65	180	1570

Information 2

伊藤^{ばん}伴さんが

世界最高峰エベレスト登頂に成功

日本人最年少記録を更新。 世界第4位のローツェ連続登頂も

本学経営学部3年の伊藤伴（いとうばん）さんが2016年5月19日、現地時間11時50分に世界最高峰のエベレスト（8848メートル）登頂を果たし、さらに翌々日の21日には世界第4位のローツェへの連続登頂にも成功しました。

昨年も登頂に挑みましたが、ベースキャンプ滞在中にネパール大震災に遭遇し断念。現地でのボランティア活動を経て帰国した伊藤さんですが、今年は昨年の大地震にまつわる特例でエベレストへの入山許可が延長され再チャレンジの機会を手に入れました。そして悲願のエベレスト登頂、ローツェへのダブル登頂に成功したのです。

日本人最年少記録を塗り替える世界最高峰への登頂は、すでにテレビや新聞でも報じられていますが、帰国した伊藤さんに本学の学生記者（田中紘夢さん・現代法学部4年）がインタビューを行い、エベレストへの思いや現地での苦労、そして今後の夢について聞きました。

*現時点では、早稲田大学 南谷真鈴（みなみやまりん）さんが日本人最年少記録を更新しました。



制覇したばかりのエベレストをバックに、ローツェ登山に挑む伊藤さん。



（左）標高8848メートル、空気の薄いエベレスト山頂での記念撮影。苦楽を共にした仲間と、夢の実現を喜びました。（右）ほぼ垂直の氷壁を、ロープを頼りに登り続ける伊藤さん。

－エベレスト登頂を考え始めたのは、いつ頃からですか？

漠然と「登ってみたい」と考え始めたのは小学生の頃ですが、明確に目指し始めたのは高校3年生くらいです。

－昨年チャレンジした時と心境の変化はありましたか？

正直なところ、2 度目なので失敗は許されないというプレッシャーがありました。昨年のように不可抗力による失敗ならまだしも、自分の技術や体力の不足が原因で登れなかったら……という不安はありました。でも今年は、エベレスト街道をトレッキングしている段階からかなり調子が良かったので、「これはいける！」という確信がありました。

－登頂に成功した時の様子を教えてください

僕たちがアタックした日は他のグループも含め 200 人程度が登っていて、ルートが 1 本道のため登りと下りで大渋滞が起きていました。

人と行き違うたびに固定ロープからカラビナ（金属リング状の登山用具）を外し、また装着し直すという作業を繰り返し、最終キャンプから 13 時間かけて登頂しました。当日は風がとても強く山頂の風速は 30 メートル近くあり、立ち上がると危険な状態でした。

－エベレスト山頂はどんな眺めでしたか？

それはもう素晴らしい眺めです。国境線が見えるわけではないけど、ネパール側とチベット側では景色が全く違う。ネパール側はエベレスト山脈が連なり、氷と岩肌が地平線まで続き、チベット側は赤茶けた大地が永遠と続くのです。下から見上げるよりも、上から眺める方が断然いい景色です。

－登頂中にいちばん苦勞したことを教えてください

エベレスト登頂後、世界第 4 位のローツェという山にも登ったのですが、固定ロープがないことが大変でした。固定ロープに繋がっていればスリップしても落ちることはないし、疲れたら体重を預けて休むこともできるのですが、ローツェはそれがなく、常に休めない状態だったのです。

―震災からの復興状況を確認するため、下山後にカトマンズを訪問したそうですね

カトマンズやエベレスト街道は概ね復旧していて、観光客も不自由しない状態でした。少し外れた街ではまだ崩れたままの場所はありましたが、がれきの整備も進んでいて、テント生活者の数は減っています。

世界遺産でも崩れてしまっている部分はありましたが、そのまま遺跡として残すという話もあるようです。まだまだ傷跡は残っていますが、素晴らしい観光地はたくさん残っているので、訪れる価値はあると思います。

―最後に、今後の目標を教えてください

エベレストとローツェを登って、8000メートル級の山を2座制覇しましたが、今年中に8000メートル級の山を5座制覇しようと考えている最中です。

もちろん勉強も大切ですが、今しかできないことに挑戦していきたいと思っています。山は逃げなくても、チャンスに逃げられてしまうことがありますから。

Information 3

山田真樹さん「世界ろう者陸上競技選手権」でメダル4個獲得！

400メートルで世界ろう者ジュニア新記録を樹立

本学体育会陸上競技部の山田真樹さん（コミュニケーション学部1年）が、2016年6月25日（土）から7月3日（日）までブルガリアのスタラ・ザゴラで開催された「第3回 世界ろう者陸上競技選手権」に出場しました。

男子400メートル決勝では48秒25の好タイムで世界ろう者ジュニア新記録を樹立し、堂々の銀メダルに輝きました。ほかにも男子200メートル、男子4×100メートルリレー、男子4×400メートルリレーに出場し、合計4つのメダルを獲得。うち2つの種目で日本ろう者記録を更新するなど素晴らしい成績を収めました。

山田真樹さんは「応援ありがとうございました。私が目標としていた4つのメダルを持って帰ることができて、本当にうれしく思っています。今シーズンは日本インカレの4×400メートルリレー、関東新人戦とビッグゲームが続きます。油断せず頑張りたいと思います」と、喜びと共に今後の目標について語りました。



（左）表彰式で銀メダルを誇らしげに掲げる山田さん [写真左]。（右）山田さんはリレーを含む4種目でメダルを獲得。うち3種目で世界ろう者ジュニア記録、日本ろう者記録を更新しました。

◆山田真樹さんが出場した種目と記録

	種目	記録	備考
銀メダル	400メートル	48秒25	世界ろう者ジュニア新記録
	200メートル	21秒93	----
	4×400メートルリレー	3分17秒22	日本ろう者新記録
銅メダル	4×100メートルリレー	42秒02	日本ろう者新記録

Information 4

オープンキャンパス女子プロジェクト

東京経済大学の魅力を女子目線で伝える

オープンキャンパスへ足を運んでくれる女子受験生に東京経済大学の魅力を知ってもらうため、女子学生による「オープンキャンパス女子プロジェクト」を立ち上げました。



腰を据えてロングキャリアを目指す「ロンキャリア女子」の育成をコンセプトとしたこの取り組み。2015年に始まったもので、中でもオープンキャンパスに来校する女子高校生をターゲットとした「女子カフェ」は大きな成功を収めました。これは、本学の女子学生とお茶をしながら本音でトークするフレンドリーな内容で、常に満席状態という人気のプログラムです。参加した女子高校生からも、「女子在学生の生の声が聞けてよかった」という声が多く寄せられました。

2年目となる今年は、昨年の同プロジェクトに携わった9名の学生が中心となってアイデアを出し合い、「女子カフェ」のレイアウトやメニュー、オリジナルグッズの企画を進めています。

プロジェクトリーダーの小俣祥子さん（コミュニケーション学部4年）は「オープンキャンパスに来てくれる高校生が東経大のファンになるような取り組みをしたい。環境やサポート体制が整っていて、自分のやりたいことを実現できる大学であることが伝わるとうれしいです。高校3年生になって将来の進路を考えると、ぜひ、東経大も選択肢のひとつとして考えてほしい」と話しています。

企画段階から学生が参加する「オープンキャンパス女子プロジェクト」。ミーティングでも活発な意見交換が行われます。

女子サイト <http://www.tku.ac.jp/hapicari>



Information 5

対外経済貿易大学・東京経済大学交流 30 周年

記念イベントとして学術フォーラムを開催

本学と中国・対外経済貿易大学の協定締結 30 周年を記念し、2016 年 6 月 6 日(月)と 7 日(火)の 2 日間、東京経済大学 大倉喜八郎 進一層館 (フォワードホール) にて学術フォーラムを開催し、延べ 460 人が来場しました。



それぞれの視点で、グローバル時代の大学教育について講演

対外経済貿易大学との交流は 1984 年から続いており、これまで相互に教員・学生の派遣をしてきました。今回のフォーラムは、両大学代表者による基調講演を皮切りに、「中国と日本の文化交流」、「中国と日本が直面する経済の課題」、「中国と日本が抱える環境・エネルギー問題」と題した 3 つのフォーラムが行われました。

冒頭、東京経済大学の堺憲一学長と、対外経済貿易大学の趙忠秀副学長が登壇し、共に「グローバル時代の大学教育」をテーマとした基調講演を行いました。

堺学長は、長期にわたって交流を続けられたことに謝辞を述べ、「対外経済貿易大学は、東京経済大学にとって世界で最も重要な大学のひとつと位置付けている。今回のフォーラムを通して、グローバル時代における中国・日本両国の課題について議論を深めていきたい」と、あいさつしました。続いて、日本、そして国内の大学が直面している諸課題、東京経済大学の進むべき道について、それぞれグローバルな視座を交えながら見解を述べ、講演の最後には「国際交流の基本は膝を交えた交流・意見交換である。信頼関係が最も大切であり、これからも両大学の関係を重視したい。今回のフォーラムが、さらに互いの大学の発展に貢献できればと願っている」と、フ

オーラムの盛会に期待を寄せました。

続いて登壇した趙副学長は、中国の大学事情に触れ「中国は大学の数・学生数ともに『大国』であるが、今後は『強国』を目指したい。このためには質の保証が重要である。具体的にはイノベーションができる人材、リーダーになれる人材、さらには起業しトップに立てる人材を育てる必要がある。また、物事や既存の状態に対して疑問を持てる人材の育成も重要である。これは中国の大学教育の目標として重視していることである」と述べました。

東京経済大学と30年交流を続けてきたことについて、趙副学長は「両大学の交流は、国際交流の手本である」と成果を強調し、「次の30年に向けてさらに交流を深めたい。両国の青年と国の未来のために力を尽くしていきたい」と力強く宣言しました。

互いの文化を学ぶことから深まった両大学の交流

午後に行われたフォーラムでは、「中国と日本の文化交流」のテーマで、対外経済貿易大学の郭徳玉准教授、趙力偉准教授、東京経済大学の村上勝彦名誉教授、大岡玲経営学部教授がそれぞれ講演し、その後パネルディスカッションが行われました。

郭准教授は「中国における日本語教育は清朝時代から始まり、その後大学で日本語学科が成立発展した」と述べ、現在では日本語教育に加え、日本文学、日本文化などにも力を入れていると話し、続いて日本古典文学専門の趙准教授は、唐の白居易による詩文集『白氏文集』が和歌に与えてきた影響について解説しました。

村上本学名誉教授は、「大倉喜八郎が、中国の古典演劇である京劇の俳優梅蘭芳の北京公演を観劇したことから両者の交流が始まった」と、本学の前身・大倉商業学校の創立者である大倉喜八郎が中国の文化・文芸に大いに関心を寄せていたことに触れ、「京劇と歌舞伎が相互に教え学びあうものとなり古典演劇における日中交流が深められた」と説明しました。また、大岡教授は「万葉集」などを例にとり、中国文化がどのように日本文化に伝わり変容を遂げたのかについて語りました。

2日目午前の部では「中国と日本が直面する経済の課題」として、対外経済貿易大学から趙忠秀教授、龔炯教授、東京経済大学から岡本英男教授、井上裕行教授がそれぞれ講演し、パネルディスカッションが行われました。午後からは「中国と日本が抱える環境・エネルギー問題」と題し、対外経済貿易大学劉慶杉准教授、呉丹紅准教授、東京経済大学礪野弥生教授、小林健一教授がそれぞれ講演し、大気汚染やエネルギー政策、環境関連プロジェクトの資金調達のために発行されるグリーンボンド(地球温暖化対策事業費を賄うための債券)について報告が行われました。パネルディスカッションでは、環境に配慮したエネルギー投資や環境に関するさまざまな情報の開示に関して議論が行われ、対外経済貿易大学の呉准教授は「いちばん重要なのは環境。工業社会から環境社会への転換が始まっている。環境問題はすでにさまざまな取り組みをしているが、今以上に日中が共に手を取りあう必要がある」と語りました。

3つのフォーラムでは、それぞれの講演の後にパネルディスカッションが行われ、掲げられた諸課題に対して活発な議論が行われました。

Information 6

わらしべ長者プロジェクト開催

物々交換の繰り返しで得た資金を国境なき医師団へ寄付

本学の学生は、学内で物々交換を繰り返し得た物資を換金し、国境なき医師団へ寄付する社会貢献運動「わらしべ長者プロジェクト」を、6月13日（月）～17日（金）の昼休みを利用して展開しました。

企画メンバーの多くは2年次の夏季から約5カ月間、海外研修を行う「グローバルキャリアプログラム」に所属しており、渡航に先がけ国際的な社会貢献について調べていたところ、食糧や医療の不足など世界で起きている深刻な問題について記した『国境なき医師団』のウェブサイトに出会い、この企画を考えました。



プロジェクト代表の町塚洋介さん（経済学部2年）は、「目標として設定した金額はわずか1500円でしたが、それだけでアフリカや南アジアの60人の子供たちに予防接種を受けさせることができるのです。国際貢献に興味があっても何をすればよいか踏み出せずにいたところ、少ない資金でも協力できると知り、まずはやってみようという気持ちで始めました」と話し、さらに「語学研修でオーストラリアへ行くので、プロジェクトの過程をメンバーと共有し、国際貢献への意識を高めるとともに、メンバーで協働する機会としたい」と力を込めて語りました。

物々交換は、「換金は難しいけど物語があるもの」として沖縄のガラス細工などからスタートしました。それが水筒、新書、ゲーム機やゲームソフト、ポットなど換金できそうなものになり、ネットオークションを通じ最終的に換金した額は1万1279円分と、目標を大きく上回ることができました。

参加した学生は、「募金活動の規模には及ばないが、物々交換という手段を楽しみつつ予想以上の金額を寄付することができ、とても満足しています。留学を終えたら、運営側も参加者も楽しめて、かつ人のためになることをコンセプトにサークルをつくりたい」と話しています。

なお、この取り組みに対し、「国境なき医師団」日本事務局長より感謝状をいただきました。



昔話「わらしべ長者」になぞらえた物々交換。昼休みの限られた時間を利用して行われた活動ですが、最終的に1万1279円を寄付することができました。

Information 7

お年寄りの健康を考え「からむし」の葉を使った「笑福」発売

ほうれん草の57倍のカルシウムを含む植物で作る和菓子

本学経営学部・北村真琴ゼミナールは、有限会社ネオ昭和（新潟県十日町市）とコラボレートし、現地で栽培されている多年生植物「からむし」を練り込んだ大福の開発を企画しました。

からむしの茎は通気性や耐久性に優れ、織物や紙などに活用されますが、マーケティングなどを学ぶ同ゼミ生は、葉にカルシウムや食物繊維が多く含まれる特性を知り、食用での利用を



企画。情報を収集していたところ、この活動を知った「ネオ昭和」の村山好明社長から同ゼミへ協力の打診があり今回の商品開発につながりました。

プロジェクト代表の菅原卓也さん（経営学部4年）は、「新潟県のこの地域は高齢者が多いので、1日の食事で十分な栄養を摂れない方々に、からむしでカルシウム不足などを補ってもらえないかと考えました。調査の過程で和菓子、とりわけ大福が高齢者に好まれるというデータを得たので、おやつとしてからむしを練り込んだ大福を企画し、健康で笑顔でいられるようにとの思いから、商品名を『笑福（わらふく）』と名付けました」と語りました。

「笑福」は2016年6月30日（木）～7月3日（日）の期間、東京・表参道のアンテナショップでイベント販売を行い、連日盛況のうちに販売を終了しました。

Information 8 その他

●卒業生の現役教師 成瀬大地さんが勧める多様な「教師への道」 ～質問も絶えることなく和やかに～

東京経済大学に教職ラウンジがオープンして約1カ月の2016年7月2日（土）、教職ラウンジ開設記念企画として、A311教室で、講演「教職への道」を開催しました。

講師は東京都立東高校地歴科「日本史」教諭に着任した成瀬大地さん（2012年経営学部卒）。成瀬さんは大学卒業後、民間企業に就職し4年間の勤務の後、予定していた社会人枠の教員採用試験に挑み、この春から念願の教師生活を送っています。

成瀬さんの教職への思いは高校時代から。オーストラリアへの留学経験が大きな転機となっています。大学時代は、海外経験のための資金稼ぎのアルバイトをしては長期休暇を利用して海外に出かけるという生活サイクルで、世界の各地を旅し、貴重な経験を積んできました。その経験が現在の教員生活の授業の中で生きているとのことでした。

講演では、パワーポイントを使った模擬授業も行いました。これは実際に高校で行っている授業ということで、生徒たちを飽きさせず、考えさせる仕掛けが至るところに配置されていました。講演会もまた、さながら高校で行っている授業のように展開しました。出席者の学生に質問を投げかけながら、気のきいた、時には心にぐさりとささるコメントを返す、この講演だけで「成瀬学級」が成立したかのようでした。

成瀬さんのメッセージを要約すると次のようになります。

「ストレートに教員採用試験を受けなくてもいい道もあります。経験を積んで、社会人採用枠でぜひとも教師を目指してほしい。私はその道を行くために大学時代は、とにかく経験値を高くしようと考え、海外に視点をあてました。皆さんもそういう大学生活を送ってください。その豊かさが生徒への話題提供につながり、生徒たちの授業への関心へとつながっていきます」。

出席者は、1年生から4年生まで全学年、学部の壁を超え、卒業後の進路を模索する教職履修者でない学生も含め総勢約20名。会場は少人数を感じさせないやわらかな空気と一体感に包まれていました。

講師の成瀬さんの引きつける力を前に質疑応答の30分間、質問が絶えまなく続きました。講演終了後は、教職ラウンジに場所を移動し開設記念の交流会となりました。

教員採用試験を直前に控え4年次生の出席が困難でしたので、秋に再度企画を予定しています。あわせて、今回の講演のビデオ上映会を教職ラウンジにおいて秋以降予定していますので、在学生はぜひご参加ください。

●スカイプを使用してタイの大学と協働授業実施

タイ・バンコクの泰日工業大学と相互交流を行いながら異文化コミュニケーション能力を高め、自らのグローバルキャリアへの意識を高めることを目的に開講される経営学部の特別講義「グローバルキャリア入門」では、現地からの留学生の受け入れや本学学生のタイへの訪問など積極的な相互交流を行っています。

4月にはスカイプを使い、泰日工業大学（タイ・バンコク）と合同授業を実施。本学からは11名、泰日工業大学からは7名の学生が出席し、互いの訪問に備えて英語で自己紹介を行いました。氏名や専攻のほか、それぞれの国で行きたい場所や連れて行きたい場所について触れ、本学の学生たちが富士山や浅草、秋葉原、原宿などを案内したいと伝えると、タイの学生からは歓声がありました。「タイ料理が食べたい」と話したところ「日本に行った時、作ってあげるよ」と会話が弾むなど、授業が進むにつれ打ち解けた学生たちが主体的に授業を進行し、あっという間に1時間余りの遠隔協働授業が終了しました。

田島博和経営学部教授は「今回は顔合わせですが、スカイプでの直接対話を通じて親密な関係になり、今後の研究をスムーズに進行することが大切。外国の学生と英語で自発的に作り上げる授業として、グローバルな東経大になるための先駆けでありたい」と語りました。

その後5月9日（月）から30日（月）までの間、泰日工業大学の学生が日本に滞在し、本学学生と「日本のお茶飲料をタイでいかに売るか」とうテーマで合同研究を行い、飲料メーカーや大手スーパー、地元の茶畑・製茶工場などを訪問し研究を深めました。8月には本学の学生がタイを訪問し、現地調査を実施する予定です。



（左）通信サービス「Skype（スカイプ）」を利用した泰日工業大学との合同授業。（右）5月には泰日工業大学の学生が来日し、直接対話による合同授業も実現しました。

●大倉喜八郎記念東京経済大学学術芸術振興会

～信州青木村『義民太鼓』 & 山中信人 津軽三味線 演奏会 開催～

青木村義民太鼓保存会による信州青木村『義民太鼓』と山中信人氏の津軽三味線演奏会を、7月30日(土)に、東京経済大学国分寺キャンパスで開催します。

「義民太鼓」は、昔から百姓一揆が多く起こった信州・青木村で、一揆の首謀者として処刑された「義民」の功績を後世に伝えるために作られました。青木村義民太鼓保存会は太鼓を通じた活動で、義民顕彰の心を現代に伝えています。

津軽三味線奏者の山中信人(やまなかのぶと)氏は、15歳で単身青森県弘前市に渡り、津軽三味線奏者「山田千里(やまだちさと)」の内弟子として修業した後、山田流師範となりました。津軽三味線全国・世界大会でC級B級連続優勝、最上級男性A級優勝、さらに津軽民謡の伝統的な唄付けの技術を競う「唄付け伴奏部門」で3回の優勝を獲得しています。

青木村義民太鼓保存会
信州青木村『義民太鼓』&
山中信人 津軽三味線 演奏会

2016年7/30(土)
開演14:00(開場13:00)

会場：東京経済大学 国分寺キャンパス 4号館D101教室
参加費：1,000円(大倉記念学芸振興会会員・学生は無料)
※参加費は当日受付で申し受けます。※6歳以下のお子様は入場できません。

申込方法：事前申込制。裏面の申込用紙にご記入の上、FAXまたは郵送でお申し込みください。
また、本学ウェブサイトからも申し込めます。(電話での申込は受け付けておりません)

申込締切：2016年7月26日(火) ※ただし、定員に達し次第、申込受付は締め切らせていただきます。

定員：先着500名 ※申込順に予約券を発送いたします。

主催：東京経済大学・大倉喜八郎記念東京経済大学学術芸術振興会

東京経済大学

日時	2016年7月30日(土) 開場13:00/14:00 開演
会場	東京経済大学 国分寺キャンパス 4号館D101教室 (東京都国分寺市南町1-7-34) ※会場変更の場合があります。
参加費	1,000円(大倉記念学芸振興会会員・学生は無料) ※参加費は当日受付で申し受けます。※6歳以下のお子様は入場できません。 申込方法：申込用紙にお名前、郵便番号、住所、電話番号、参加人数を記載しFAXまたは郵送してください。
定員	先着500名(申込順に予約券を発送いたします) ※定員に達し次第、受付を締め切らせていただきます。
問い合わせ先	広報課 電話(042)328-7900 FAX(042)328-7768 Eメール pr@s.tku.ac.jp

【東京経済大学 総合企画部 広報課】

〒185-8502 東京都国分寺市南町1-7-34

TEL:042-328-7724 FAX:042-328-7768 email:pr@s.tku.ac.jp